「Stay home, read now!　今こそ、本を読もう！

～図書部による連続ブックトーク」　No.4

■ジェフリー・ディーヴァー（Jeffery Deaver）1950年　米国イリノイ州生まれ

ミズーリ大学でジャーナリズムを専攻。雑誌記者、弁護士を経て40歳でフルタイムの小説家となる。

おすすめは「ボーン・コレクター」からはじまる”リンカーン・ライム”シリーズ。四肢麻痺で車椅子に乗った元ニューヨーク市警の科学捜査官リンカーン・ライムが活躍。彼は「ロカールの交換法則」により事件現場と犯人の間では必ず何らかのものが交換されるという原則をもとに、徹底的な現場検証と証拠分析を自ら行い、また同僚にも求めて事件を解決に導く。シリーズを追うごとに発展してゆく、パートナーである元モデルの赤毛美人・サックスとの恋愛関係も読みどころの一つです。二人をとりまくベテランから若手までの「いつもの」連中も、とってもクールです。推理、トリック、そしてアクション。そしてディーヴァーの作品の最大の特徴は「どんでん返し」。つねに最後まで読者を退屈させません。現在もシリーズ続行中ですが、これまでの作品を順に紹介します。他にもスピンアウトで「人間嘘発見器」”キャサリン・ダンス”が活躍するシリーズもおすすめです。（例によって、ここで紹介するのは文庫本のみ。ハードカバーではもう何冊か出ています。）

リンカーン・ライム シリーズ

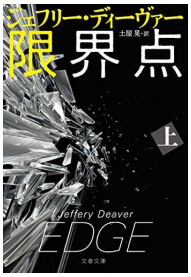
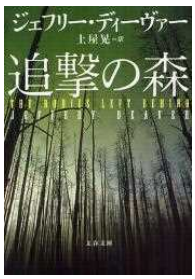
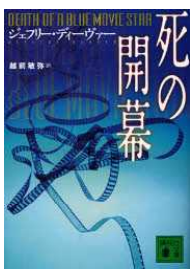
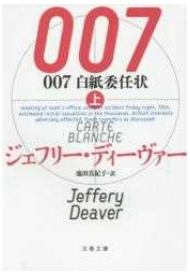
・骨の折れる音に耳を澄ます。すぐには殺さない。「骨」に異常な執着をする犯人を追う…「ボーン・コレクター」
・「棺桶の前で踊る死神」の刺青をした殺し屋は巧みに警察を翻弄（ほんろう）する…「コフィン・ダンサー」
・男一人を殺害し二人の女性を誘拐して逃走したとされる少年の行方を探すが…「エンプティー・チェア」
・中国の密航船が沈没、10人の密航者がニューヨークへ上陸した…「石の猿」
・犯人にマジックの経験があることを察知し、イリュージョニスト（イリュージョニスト）見習い女性に協力を仰（あお）ぐ…「魔術師」
・タロットカードを残し執拗（しつよう）に少女を付け狙う犯人の真の動機とは？…「12番目のカード」
・優れた時計を愛し、その精密さのままに犯罪を計画する犯人とライムの名勝負…「ウォッチ・メイカー」
・ライムのいとこアーサーが殺人容疑で逮捕された。濡れ衣を晴らすために立ち上がる…「ソウル・コレクター」
・数万ボルトの「電気」を武器に NY を恐怖に陥（おとしい）れた犯人が真に狙うものは？…「バーニング・ワイヤー」
・神業と言うべき超長距離狙撃により、パナマの反米活動家が暗殺されるが…「ゴースト・スナイパー」
・ニューヨークの地下で拉致された女性は毒の針で刺青（いれずみ）を刻まれ、死亡していた…「スキン・コレクター」

（すべて文春文庫）

キャサリン・ダンス シリーズ

リンカーン・ライムシリーズの「ウォッチメイカー」で初登場した「人間嘘発見器」キャサリン・ダンスの活躍を描く、スピンアウト作品群。魅力的なキャラであることから、新シリーズのヒロインとなった。彼女は容疑者のボディランゲージや言葉遣いを観察することで「嘘」を発見する（キネシクス）。彼女のこの「人間的側面」はリンカーン・ライムの「証拠絶対主義」と好対照だが、ライムもダンスの能力とプロ意識には一目置いており、NY とカリフォルニアの距離にもかかわらず、互いを信頼して犯人逮捕に協力する。私生活では音楽と、亡き夫の間にもうけた2児と犬を愛する。こちらもパートナーとの恋愛感情の発展にも注目。では4作品を紹介しよう。

- 他人をにコントロールする天才、そして残酷きわまりない元カルト教団教祖ダニエル・ベルが脱獄した。彼の狙いは何？彼の過去の犯罪を目撃した少女の協力は得られるか？ダンスとの頭脳戦… 「スリーピング・ドール」
- 路傍に翌日の日付の入った十字架、そこに名を刻まれた女子高生が命を狙われた。十字架は他にいくつも用意されていた。ダンスはネットいじめに遭っていた容疑者の少年を追うが… 「ロードサイド・クロス」
- ダンスの友人でカントリー歌手ケイリー。彼女の歌詞をなぞるように事件が起こる。それを追うダンスをあざ笑うかのように第2の事件が…リンカーン・ライムが助っ人に加わり、犯人を追う… 「シャドウ・ストーカー」
- 満員のライブハウスでパニックを引き起こし、人々を殺傷した犯人。残忍な「煽動者」をを追いはじめるダンスだったが、犯人は講演会で、テーマパークで、新たな事件を引き起こす。その目的とは？… 「煽動者（せんどうしゃ）」

（すべて文春文庫）

●以上人気の2シリーズを気に入った人は、シリーズ外のこちらもどうぞ。